

World Roller Skating Championship

に参加して



2年前にお世話になった
アメリカのコーチと妹



試合前の練習風景



ウッパータルの町で
ランチタイム



総合優勝したイタリアの選手と
(私の大好きな選手です)



ホテルから見た
ウッパータル市の風景

^三度目の世界大会^

今年の全日本ローリースケート選手権で規定優勝を果たし、私としては三度目の世界大会への出場資格を得ました。一昨年のアメリカ、昨年のイタリアに続いて今年ドイツのウッパータルという町で大会が行われました。ウッパータルは、デュッセルドルフの近くにありますが、それほど大きな町ではないですが、日曜日には駅二つ分の通りに市場が開かれ、そこを人が埋め尽くすほどのにぎわいでした。

(34ページに続く)

表紙のことば

今回のテーマが「FD」という一般的にはあまり聞き慣れない言葉であるため、より多くの人に感心を持ってもらおうと、あえて「FD」というロゴを前面にもってきた表紙作りを心がけました。

教育のあり方はいつの時代も論議的になってきましたが、いま新たな大学教育改革の渦中にあるのが現状ではないでしょうか。

そんな中、教官と学生が互いに協力しあうことで、徳島大学が一步も二歩も先に、改革への道を見出し出していけることができればと思います。

徳島大学総合科学部人間社会学科
デジタルイメージング研究室

後藤友香



World Roller Skating Championship に参加して (ドイツ・ウッパータル)

あや
彩
じ
司
郷

医学部・医学科・3年次生

(表紙グラビアページから続く)

雰囲気もどこか懐かしく、身近な感じがするのは、昔日本がドイツを見習って成長してきたためではないか、などと思うほどでした。そんな環境の中で、食べ物の違いにもあまり困ることなく、張りつめた緊張感もやや和らいで試合に臨めることができました。

もう一度挑戦

世界大会は、12歳以上18歳未満のジュニアの部と、一般のシニアの部に分かれています。昨年イタリアで初めてシニアの部に参加した私は、緊張のため体が思うように動かず、成績は最悪でした。自信喪失でローラースケートをやめてしま



アジア大会でもよく会うから
タイペイの選手とはみんな仲良し



大会終了後のパーティーで
チャイニーズタイペイの選手団と

おうと思うくらい、世界に打ちのめされて帰ってきました。今までやってきたことは何だったのか深く悩み、あきらめようかと考えました。しかし、もう一度挑戦したいという情熱が自分を突き動かして、一年間悔しさを思い出しながら練習してきた気がします。

演技の内容は……

そして臨んだ今大会、4課題中特に一つの課題では、周りの人が「上手になっただね」、「今の演技は最高だったよ」と褒めてくれるほどのできばえで、やっと認めてもらえるようになったと感じ、一年間努力してきたことが無駄ではなかったんだなと思っただけ嬉しかったです。



ドイツのリトルスケーターと！
この時、何とサインを求められた(笑)

最後に

私は医学科に入学したときに、自分がこのスポーツを真剣に続けられるのは2年生までだろうと思いき、又他の人にもそう言ってきました。しかし、昨年の大会で悔しさだけが残ったとき、自分の努力はまだまだ足りないことがはっきりとわかり、もう一度今の環境の中で精一杯の努力をしたいと思いました。そして今、わかったことは、一つひとつの経験を無駄にしないということです。昨年の経験がなければ今の私はいません。最後に、私の意志を認めて応援してくれた両親や、コーチ、友達に心から感謝しています。